

トラック 190

サン・タンダレ市在住の男性（60代後半）

私の名前はロジェ・リュシ、自治体の高齢者担当オフィスの会長だ。この辺りでは私は顔が広くて、色んなクラブの会長をやっているし、高齢者に様々な体験活動を提案する特別なクラブもやっている。でも相識としては事務所もあるし、市役所に担当者もいる。市役所から補助金をもらっていて、私がその小切手を切る訳だ。

もう少し大きな声で話してくれないかな。長年騒音の中で働いていたので、片方の耳が聞こえないんだ。反対側は聞こえるけどね。ここでインタビューやるので良かったよ。さっきの場所だと無理だったかも知れない。横に騒音があるとまったく聞こえないから。私は瓦職人・金物職人として43年間ボア・ルージュの工場で働いた。この仕事では、ひどい騒音が発生するのだけど、防音ヘルメットをもらった時はもう遅かった。片方の鼓膜はもうだめになっていた。今はそれで普通に生活しているけどね。

19年以上このクラブに関わっている。前は、カマチ・チェリさんが会長を務めていたが、今は私がその後を引き継いで、体験活動を運営したり、朝の *amarrage*? もやったりしている。プールへ行きたい人々のためなどに、（このクラブは）体験活動を計画している。それにミニバスがあるから、散策活動中に歩いている人が疲れてきた時には、（疲れた人を）助けるために、ミニバスに乗ってもらう。そう、散策活動もやっている。サント・シュザンヌからサント・マリーにあるボア・マダムまで歩いている。（そのルートは）分かるかい？

で、小道を歩いて行って、（ルートの）半ば辺りにミニバスを止めておき、少し疲れてきた人を乗せる。その後、みんなで食事をして帰るんだ。プールへ行く日や、アルツハイマー病（の患者）向けの活動や、読めない人のための教室とかもある。いつも誰かが付き添っているんで、彼ら（参加する高齢者）が一人になることはない。参加できない人は、村で孤立してしまうんだ。そうしたら、この辺りの老人ホームに来る人もいる。昔は「青い週」（=高齢者を中心にしたイベント）があったけど、今はそれに参加するクラブも少なくなってきた。クラブには色々あるけど、私たちの組織とは関係がない。体験活動を色々やっているのに、私たちには知らせて来ない。各クラブは自分だけのイベントをやっていて、高齢者なんて必要としていないんだ。私たちのクラブと一緒にやっているのは、他に3つのクラブがあるだけだ。前は22もあったけど。もっと真面目な活動もあるよ。モーリシャスなんかにはね。そう、私は色々なことに関わっているんだ。

私は1957年に働き始めて、それから28ヶ月兵役に付いた。その後、（前と）同じ会社で同じ仕事に戻り、53歳まで働き続けた。その後、国立雇用財団（Fond National pour l'Emploi）に行かされた。工場が次々と廃業した時に、政府はそういう対策を取ったんだ。そして私らは定年前に退職させられて、60歳までは商工業雇用協会（ASSEDIC）に通った。で、60歳になると、ついに年金生活が始まるという訳だ。たくさん、たく

さん働いたよ。

昔は水道なんてなかった。バケツ一杯の水を手に入れるために数キロを歩かないといけなかった。それにガスもなかったから、木を切って、乾かして、家まで運んでいた。乾いたら、家の中に別の.....をぶら下げて、そこで木を燃やしていた。トイレだって家の中にはなかったよ。外に行かないといけなかった。サトウキビ畑とかにね。惨めだよな。何にもなかった、何にも。石油ランプはあった。アルコールは月に 25 リットルもらっていたけれど、そのアルコールを燃やしていた。銅のアルコールランプがあった。綿をしっかり詰めて調整して、石油でもね。圧力が下がると、火が弱くなって、.....すると圧力がまた上がる。それら（石油ランプ、アルコールランプ）は、シルヴィアーヌの車にまだあるよ。展示するために。

昔は裸足で学校に行っていた。家に着いたらおやつを食べていたし、（学校の）食堂でも食べていた。バスはなかった。サント・シュザンヌからは歩いて行っていた。雨が降ると、レインコート代わりにランタナの葉っぱを使っていた。レインコートになるからね。何にもなくて、フードなんかなかった。店で買い物する金もなかった。父はトラックのタイヤを切って靴を作っていた。横にゴムを入れて、それを履いて歩いていたよ。

父はサン・タンドレ出身だった。彼は機械工と鍛冶職をやっていた。私は鍛冶職人の仕事を習って、今でも鍛冶場で働いている。家に鍛冶場がある。父は昔リビングの一角で（鍛冶の仕事）をやっていた。私は若者や学生に見せるために、わざわざ鍛冶場を作ったんだ。彼らは水曜日みたいな休みの時に時々立ち寄るから。金床を持ってきて鍛冶場を用意して、子供たちの前で実演をする。絶滅しつつある（仕事なんだ）から。どうやってハサミを作るかとか、鶴嘴をどう手に持つかとか。今でもやっている。木の枝を切るための刃も作った。前はそんなことをやっていたけど、歳のことも考えて、そろそろ止めようと思っている。もう 30 代 40 代じゃないからね。でも、まだまだ働く気はある。私は家でも高齢者のための活動でも積極的なんだ。ま、できなくなる時までそうありたいね。それが必要だよ、必要。気分にもいいしね。やることはいつもある。私はサン・タンドレの在郷軍人の旗手なんだから。日曜日は旗手としての十周年なんだ。私はアルジェリア戦争に従軍してその後仕事に戻った。アルジェリアでの戦争は 62 年の 3 月に終わった。レユニオン人はそんな大勢いなかったけど召集されて行った者はいた。それが人生というもので、どうにかするしかない。

昔は鉄道があったんだ。生活費を少し稼ぐために、サトウキビを切りにそれで行っていた。昔は週ごとに給料をもらっていた。まだ CFA フランだった頃だ。ボア・ルージュで働いていた人々は、土曜日に家に帰ると、家族のために稼いだ金を持って帰っていた。それでも人は足りていなかった。当時、発電機は 24 時間ずっと動き続けていたからね。少しの金だったけど（働かないと）惨めだった。今の生活なんてすばらしいよ。手元には何でもあるし。そのせいで無駄遣いもあるけど。貧しさを経験すると無駄遣いはしないからな。若者は貧しさなんて知らないから。パンのかけらでも平気で捨てるん

だけど、そのかけらが欲しい人は大勢いるんだよ。今はものがあり過ぎる。今の若者は汗をかく意味を知らない。昔は違っていた。仕事しないと食べていけない。(昔は)働かないといけなかった。それも長く働かないと。金は本当に価値があったんだよ。ユーロなんて何だ。(昔は)金は価値があったんだ。通貨は当時 CFA フランだった。そしてフランになって、さらにユーロになった。フランになったのは何年だったんだろう。覚えていないけどそんな昔のことじゃない。当時、人々はもっと幸せだった。金のある人はあるで、ない人はない。土地でも、昔は売っていたけど今は違うね。サトウキビもあった。人々はサトウキビ畑まで鉄道で来て働いていた。砂糖(の作業)でも、女性が働いていた。(砂糖の入っている)袋に記入したり、袋を手で縫ったりしていた。その後は機械化して、機械の下に袋を通すだけで済んでいた。今はバラの砂糖をサイロで保管して、バラで運ばれて、港でまたサイロに入れられる。昔は港湾労働者が大勢いた。砂糖の袋を頭に乗せて運ぶんだ。彼らは、トンごとに給料をもらっていたから結構稼いでいたよ。

昔は蒸気で動く工場があった。その後は火力に変わったけど。昔、製糖工場にミルは五つ、六つもあってサトウキビを潰していた。それで汁が全部なくなって、バガス(残滓)が残る。今は浸出方式?でやっている。昔はサトウキビ裁断機があったけど、今はもうなくて、サトウキビ(の高さ)を揃える機械があって、その後シュレッダーを使う。シュレッダーから出たサトウキビはもう粉状なんだけど、汁はそんなにはない。そうしたら、それを吸い上げて、浸出(の機械)に入れる。入れる前に磁石で金属の破片や小石を取り除く。小石は小さすぎて、もう粉状になっているけどね。浸出は、珈琲ミルのようなものなんだ。サトウキビがそこを通る時に水をかけられて、汁が出るわけだ。そこから出た時に、(サトウキビの汁は)より濃厚になっている。出た時にバガスはまだ湿っていて、もう一度ミルに戻して、しっかり潰して、潰したら、バガスはかなり乾いた状態になって、蒸気発電所に送られる。その大きいなオープンに(入れて)、発電し、そして炭も作る。今は、バガスでもお金になるよ。前はサトウキビがお金になっていたけど、今はバガスもその滓もそうだ。少しでも儲けるためには。私はそれがいいと思うけどね。電気も何でもサトウキビがないとできないからね。炭は一年中はできないから。週末は...をやって、平日はバガスだ。今もボア・ルージュには火力発電所がある。私はボア・ルージュで働いていたんだ。

蒸留所もあってラム酒を作っていた。ラム酒には糖蜜が必要だから。糖蜜は知っているだろう? 糖蜜というのはシロップの残りだ。大きなミキサーの中に酸を加えて、重さを量って、大きな槽の中に最低 48 時間置いておく。そうしたら、残りかすが下にたまってくる。それをフィルターを通さず、ポンプで上の部分だけ吸収して、それを機械まで送る。その機械は蒸気が出てそれを沸かす。その後は、蒸発が進んでアルコールになる。蒸発するんだ。方法は今と昔とでは変わったよ。昔はすべては銅でできていたけど、今はステンレスなんだ。昔は、大体銅だった。機械まですべてが銅でできていた。

今、銅はまるで金みたいに高価だからね。私はその機械を整備するためにそこで働いていた。昔の生活はそんなもんだった。それから私は、父のもとで鍛冶職人の仕事を習った。瓦製造・金物製作職人だった。たくさん働いたよ。問題は、工場が故障する度に私はずっとそこにいなくてはいけなかったことだ。休暇が取れるのは閑散期の時だけだった。労使協議会がモーリシャスへの旅行なんかを企画していたよ。抽選でフランスへの旅行も。労使協議会が金を出す訳だけど、まあ、よかったよ。工場は結構儲かっていたし。今は労働組合もあるし、色んな会社が倒産する今は適当にはできないね。昔は、その権利があるから、いろいろ要求していたけど、要求する権利はあるからね。でも、ストをしたり、職場をブロックしてたりしたら、みんな失業する。私のちょっとした人生はこんなものだ。

昔はそんな簡単ではなかった。昔、女性だって洗濯機とかなかったしね。だから、川岸でみんな自分用の石があって、それで、洗濯物を洗ったり、こすったりしていた。女性は、他の仕事もしていたよ。アイロン掛けをしてそれを配達とかしてね。今は洗濯機を使って、洗濯物はきれいに出来上がるし。でも昔はすべては手でやっていたんだ、すべて。

女性は畑でも働いていたよ。サトウキビのね。今は積み藁も機械が作るけれど、昔はそれも手でやっていたよ。それに（サトウキビの）裁断機もなくて、サトウキビも昔は手で切っていたよ。それ（機械化）も失業の原因になったよ。人間は人間を駄目にしてしまう。そうだろう、人間をだめにしているのは人間だよ。機械化が進めば進むほど、失業も進む。社長はそれで満足し、多分何百万ユーロも払って機械を買ったのだろうけど、彼には大したことじゃない、でもそれで何人が仕事を失ったのか、だ。失業すると、その後は年金なんてないからおしまいだ。大統領は、もっと働いてもっと稼ぐと言うんだけど、それは仕事があればって話でね。今は難しいよ。社長でも、働く（＝会社を動かすために）には社員が何人か要るし、社会保障負担もあるし。泳げない人でも助けなくてはいけない、少しでも。頭を押されてばかりだと呼吸ができなくなって諦めてしまう。人生ってそんなもんだ。「小さいものが大きいものをやっつける」という格言がある。（ところが）スーパーが出来る前は、小さな店が何軒もあったんだろう。今はもう（一軒も）ない。安いから、みんなスーパーで買い物をする。だから（小さい）店をやっている可愛そうな人は酒やタバコを売るしかない。米や油だったらみんなスーパーの方に行く。安いから。それで小さな店はおしまいだ。中国人がやっている店だね。酒を飲んでいたら、真夜中にね。みんな飲んでいたらよ。何故そこでなのか分からないけど、みんな飲んでいた。

私はクレオールでカトリック。100パーセントカトリックなんだ。教会を建てる時もよく働いたよ。引退していたから色々手伝った。聖櫃の外側も作った。ステンドグラスは注文したけど金属製の枠は私が作った。いつもボランティアとしてね。そうしたら、神様が少しは助けてくれる。どんな国でも人はそれぞれ自分の信仰があって批判するもの

じゃない。みんな自由なんだから。両親が私たちに言ったように、みんな自分の道を選んでいるんだ。私たちの事務所はカザルの近くにある。プールの場所分かるかい？ 消防署の辺り。私たちの事務所はそこにあるからいつでも寄ってくれ。